

FIELD

喜多見4・5丁目では、地区全体に多くの農地が残り、その風景は地区の貴重な資産です。世田谷区は地域住民に呼びかけて、農地を守り活かすために何をすべきか、何ができるかを検討しました。ポンポコからも参加しましたので、どのような話題が出ていたかをご報告します。

- 第1回 11/4 地区を歩き、風景の魅力を意見交換
- 第2回 12/15 農業・農地の現状と課題、取り組みを検討
- 第3回 1/26 取り組み案の掘り下げと推進体制を検討

喜多見をどう守り、どう活かしましょうか？



喜多見ブランドを

—— 私は料理人で、喜多見で地元野菜を使ったレストランをつくるのが夢なんですよ。
—— いいですねえ！
—— 大蔵大根は大蔵とついているし、喜多見の地場産、ブランドを作れないでしょうか？
—— 野菜じゃないですが、禅寺丸という柿とか、昔、喜多見には喜多見流茶道があったのでお茶はどうでしょうか？

落ち葉も資源

—— 畑だけでなく屋敷林や樹木も残ってほしいので、中木くらいまでなら剪定を手伝うとか、落ち葉掃きを手伝う、落ち葉はごみでなく腐葉土にする、野菜くずも集めて堆肥にする、畑に使う…、昔は地域の中で人も物も循環していたと聞きますが、喜多見ならできるんじゃないでしょうか？

—— 慶元寺は永劫会が落ち葉を集めてごみとして出しているから、堆肥になると助かるなあ。
—— 氷川神社さんも同じかもしれませんね。
—— 竹も困るんだよね。
—— 竹をパウダーにすると堆肥作りに使えるそうですよ。
—— 竹は竹細工にも使えるね。

拠点施設は

—— 4丁目の農地1500㎡を世田谷区が取得し農業公園として整備することになりました。平成26年度に設計、27年度に整備し、28年春に開園の予定です。
—— 地域の歴史・民俗情報の発信拠点としても使えますね。
—— 出入口は作りこまず舗装もしないで、実のなる木やお茶を植えて、ベンチもあるといいなあ。
—— 荷物は軽トラックでなく貨物自転車で運びたいですね。

会員制の利用は可能？

—— 区が設置する施設で、たとえば援農する人達を会員にする、そのための情報を集めて発信する拠点や、用具置き場として利用することもできますか？
—— そういう利用の仕方をする可能性もあります。
—— でも、限られた人だけの利用だと拡がりにくいですね。

どんな人が必要かなあ？

—— 畑仕事の中で、こういう時に人手があるといいなあと思うのはどういう時ですか？
—— 夏の草取りだね。
—— それを皆で手伝えると良いですね！
—— そしたら農薬もあまり使わなくて済むなあ。
—— 草取りに参加したらスタンプを押して、スタンプがたまると野菜と交換できるとか。
—— ぼく、スタンプ押す係！

—— 色々な人が必要ですよ。実際に農作業をする人、広報、商店街とつながる人、紙での情報も必要ですがインターネットを使える人も…。
—— 私、デザイナーで、インターネットも扱えますよ。

3段階かな

—— 企画・運営する核となる人達、情報を受けて活動する会員、イベントに参加する一般の人という3段階あるとか。
—— 葉もの野菜は手間がかかるので、拠点ではあまり手のかからないもの、イベント用の作物を作って、トウモロコシを食べる会、焼き芋を食べる会、芋煮会をするのもいいなあ。
—— 月に1回位、野菜を集めて販売するのはどうでしょうか。

話は尽きず、今後も引き続き検討していくことになりました。



ポンポコ新聞

[Ponpoko News]

第 54 号



=発行=

2014年2月16日

喜多見ポンポコ会議

www7.ocn.ne.jp/~ponpoko/

伝統野菜を守りたい

宇奈根ねぎ



海老澤健さんと手作り洗浄機

現在の世田谷区あたりでは昭和初期まで大根・南瓜・茄子・胡瓜・葱などの様々な野菜を自家採種し、風土に適した野菜に育てていました。そんな伝統野菜には「大蔵大根」、そして「宇奈根ねぎ」があります。「宇奈根ねぎ」とは宇奈根の沖積土の土壌で50年間自家採種された長ねぎのことです。とても柔らかく美味しいのですが、曲ったり、折れたりしやすく、宇奈根にある2軒の農家で自家用に食べられているだけで、市場には出荷されていません。

宇奈根三丁目の海老澤さんは350年続く農家で、「宇奈根ねぎ」を自家採種しながら作り続けています。実は海老澤さん、太陽光パネルで発電した電気で動く洗浄機を自分で作り、収穫した野菜の土を落とすのに使っています。今の時季は完全無農薬・有機栽培の小松菜が、二子玉川ライズの地下1階の東急ストアで購入できます。

7月10日前後の週末には枝豆の摘み取りもできますので、7月1日付け世田谷区の広報紙をご覧ください。

東日本放送アナウンサー

高木玲さん



時間内に伝えられるよう原稿を確認

昨年11月、楽天優勝を伝えるニュースに高木玲(たかきりょう)という名前が出てびっくり。喜多見小中学校出身です！
—— 子どもの頃の思い出は？
「児童館でバスケットをしたり、公園で日が暮れるまで友達と喋ったことです」
—— なぜアナウンサーになろうと？
「中学生の頃、歌手を目指していた彼女と2人でミュージックステーションに出ると約束したことがきっかけです。歌が下手なので、ならばタモリさんの代わりに司会で出演！なんて大それたことを思い、この仕事を意識し始めました。そして、『伝えること』で人の役に立ちたいという想いもありました」
—— アナウンサーになっていかが？
「楽天優勝など歴史的な瞬間に日々立ち会うことができ非常に貴重な経験をさせて頂いていると思っています」
—— 今、喜多見はどう見えますか？
「木々の緑、畑、川…生きものや作物など沢山の命を感じられる町だということです。遊び場も多く子どもがのびのびと育てる町だと感じます」

みんなでつくる野川その後

水生動物と水生植物を保護



工事区間から水生植物を採取

秋の野川ガサガサ

昨年10月19日(土)、秋の野川ガサガサを行いました。水がきれい流れが緩やかな川を好むシマドジョウの稚魚がたくさんいました。収穫はメダカ50・ドジョウ(シマ含む)35・ウキゴリ3・フナ1・エビ852・ザリガニ2、計6種類945匹でした。収穫した生きものの一部は工事に備えて持ち帰り、保護しています。

水生植物を移植

今年1月20日には、野川多自然連絡会でヨシとオギを工事区間から工事済み区間へ移植する作業を行いました。工事業者もショベルカーで採取しトラックと一輪車で下流へ運び、東京都の担当者も一緒に植える作業をしました。

経過を見守ります

ポンポコでは「みんなの野川をみんなでつくる」を通じ、現況をできるだけ改変しない・掘り下げない構造に変更してもらいましたが、昨年度の工事の影響で井戸水が出なくなった家もあるそうです。引き続き経過を見守ります。

野鳥をさがしに

チョウゲンボウもカワセミも



まず次大夫堀公園で野鳥さがし

昨年12月7日(土)、野鳥ボランティアの原田欣典さんと富川智英子さんの案内で、野鳥をさがしに出掛けました。次大夫堀公園を出発し、須賀神社、慶元寺、氷川神社を回り、野川へ出ると、アパートの屋根でジーっとしていたチョウゲンボウ(ハヤブサ科)が急降下して虫を捕まえたり、間近にいたカワセミが魚を捕ったりする場面に感動。全部で23種類の野鳥に出会いました。

INFORMATION



野川の写真展

【日時】3月19日(水)から
【主催】野川の多自然川づくり連絡会
【場所】トラスト・ビジターセンター
(成城4-29-1 野川緑地広場内)



地域風景資産その後

世田谷区の地域風景資産にポンポコから2つの風景を推薦していましたが、「農業・農地を活かしたまちづくり」に注力するため推薦を取り下げました。